なぜ原発を止めたか…わかりやすく説明

元福井地裁裁判長・樋口英明さんの講演

１日の午後、柿崎コミュニティプラザで原発講演会が行われました。主催は原発をなくす柿崎連絡会（準備会）。講師は元福井地裁裁判長の樋口英明さんです。今回の講演会はオンラインで行われました。

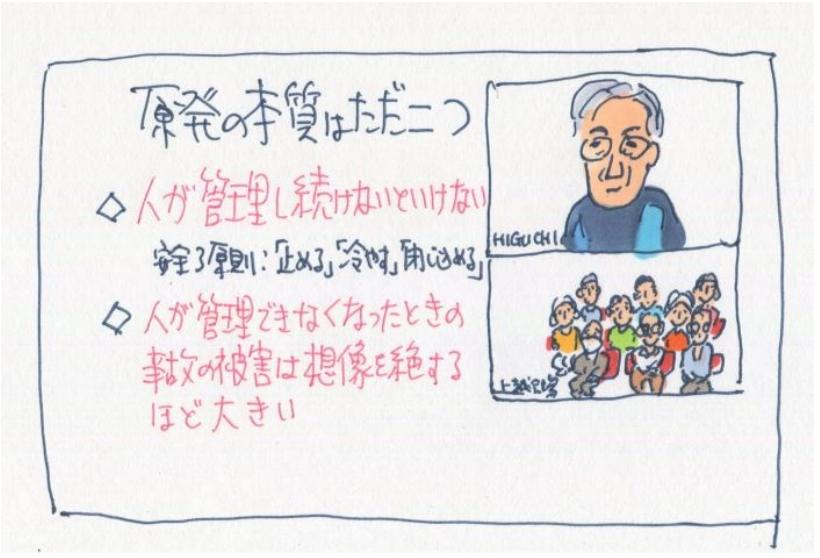
樋口さんは最初に能登半島地震についてふれ、原発設置を許さなかった珠洲市の住民運動がなかったら、福島以上の大被害になったのではないかと言われましたが、その通りだと思いました。講演の最初も最後も脱原発運動の大切さを強調されていました。講演では地学や物理学などの専門的なこともわかりやすく話され、勉強になることがいくつもありました。

その１つは、脱原発の一番の障害物は我々も心の中にある原発問題は難しいという先入観だと言われたことです。樋口さんは、「原発の本質はただ２つ。１つは人が管理し続けないといけないこと。もう１つは、人が管理できなくなった時の事故の被害はそいう像を絶するほど大きいことだ」と言われました。

２つ目は、「原発問題は専門的なことが多くて、一般市民は理解ができない」と言う言葉は「悪魔の言葉」だと言われたことです。先の臨時県議会でも県民投票反対派のみなさんはこの「理論」をふりかざしていましたが、原発の本質を踏まえ、安全に再稼働できるかどうかの判断は難しい問題ではありません。

もう1つだけあげます。樋口さんは日本で原発が許されない理由として、①原発の本質（前述。世界共通の理由）、②世界一の地震大国であるにもかかわらず耐震性が低い、③技術力がない（その証拠にいまだに六ケ所村の再処理工場ができない）、④倫理観がない（福島事故でのメルトダウンの発表は２か月後。志賀原発の復旧に2年以上かかるという発表は６か月後）、⑤危機感がない、の５つをあげられました。これも重要でした。

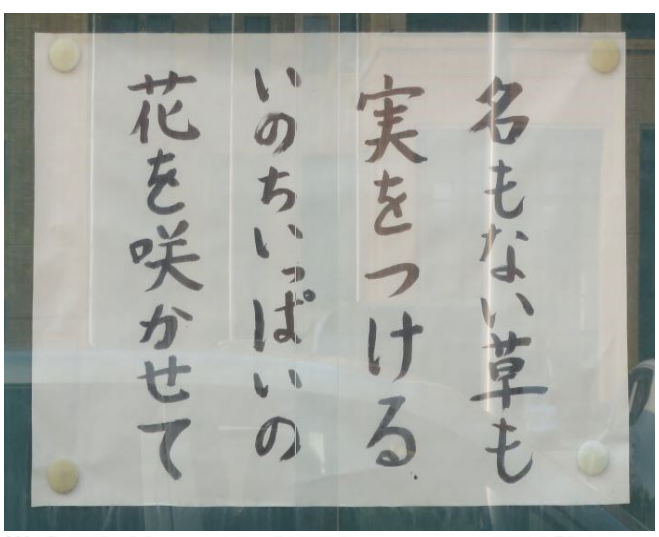
右上のイラストはオンライン講演会の様子です。



吉川区に続いて三和区でもコウノトリのヒナが誕生しました。私が5月29日に撮影した親鳥がエサを吐き出す動画と市教委が撮影した動画を基に兵庫県コウノトリの郷公園の専門家が確認しました。ヒナの数はまだ確認できていません。写真は4日に撮影した親鳥のペアです。左が個体番号J0239のオス（京都府京丹後市生まれ、5歳）です。右側は個体番号J0482のメス（鳥取県八頭町うまれ、3歳）です。

浄善寺の掲示板

柿崎区の浄土真宗本願寺派寺院・浄善寺の掲示板です。いつも「そうだよね」と言いたくなる言葉が書かれています。今回の言葉は、「名もない草も実をつける　いのちいっぱいの花を咲かせて」。素敵です。



【スイカズラ】（再掲）。スイカズラ科の常緑つる性木本。漢字で「吸葛」と書きます。子どもの頃、この花の蜜を吸ったことがありませんか。ちょっぴり甘いです。蜂もこの蜜の味を知っていて、よく見かけます。花期は5月～7月。咲きはじめは白、受粉などにより徐々に黄色くなります。花言葉は「愛の絆」。４日、吉川区代石にて撮影。

はしづめ法一の活動レポート

No.2206 2025.6.8

発行・編集 日本共産党上越市議　橋爪のりかず
Tel 025-548-3627
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL https://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見てある記」は ← こちら

橋爪法一　検索

春よ来い　第八五三回　キョウダイ

夕方、六時少し前だったでしょうか。地元事務所前で車をとめ、連れ合いのところへ電話をしようと思っていたそのタイミングで、一台の車がやってきました。

グレーの軽乗用車。わが家の者が乗っているグレーの乗用車とは少し形が違いました。何度かハンドルを切り替え、車の向きを変えようとしていたので、最初、道を間違えた人がUターンして帰ろうとしているのだと思いました。

いったい誰だろう、そう思って車から降りたところ、その車の助手席から、何と連れ合いが降りてくるじゃありませんか。

「私、乗せて来てもらったの」。その言葉を聞いてから運転席を見ると、柏崎の義兄がいました。

義兄は先日退院したばかりで、もう二度と車を運転しないものと、私は勝手に思い込んでいました。Uターンするにしてもハンドルさばきにぎこちなさがあり、自動車屋さんに勤めていたことがある義兄とは思えませんでした。でも、車を運転するまでに回復したのはたいしたものです。

義兄に少し休んでもらおうと、連れ合いが誘い、事務所に上がってもらいました。退院準備の段階で食事指導があり、脂っこいものはダメなど飲み物、食べ物にいろいろ制限がつけられている義兄です。このときはパック入りのジュースを飲みながら、語り合いました。

連れ合いと義兄のやりとりを聞いていて、この日は越後広田の温泉へ行ってきたことがわかりました。たぶん、連れ合いが温泉に行きたいと言ったのでしょう。私はまだ一度も行ったことがない温泉ですので、柿崎は雁海にあった湯宿をイメージしながら聞きました。

越後広田の温泉に行って二人が印象に残ったことの一つは「きれいだったこと」だったようです。私の連れ合いは五十年ほど前に行ったことがあるとのことで、「建物は今風の造りになり、とてもきれいになっていた」などと言っていました。おそらく、昔は鄙（ひな）びた湯宿だったのだと思います。

「鄙びた」という言葉で思い出しました。その湯宿には義兄など三人の兄妹だけでなく、九州（?）から来たお客さんもおられたようです。どうやら、「鄙びた温泉」めぐりをされていて、偶然、柏崎の兄妹と一緒になったのでしょう。少しぬるかったという露天風呂に入り、そこでおしゃべりを楽しんだとのことでした。

連れ合いと義兄の話はまだまだ広がりそうだったのですが、すでに時計は午後六時を回っていました。上輪大橋通行止めにより、再び高速道路に上がって帰らなければならないということもありました。義兄は二〇分ほど休んでまた車に乗りました。

連れ合いによると、義兄が柏崎に着いたであろう時間帯に電話したところ、「とても疲れた」という言葉が返ってきたそうです。とにもかくにも、無事に帰れて良かったです。

義兄を見送ってから思ったのは、私は兄弟四人で何処かへ行ったことが一度もなかったということです。一番下の弟が四十数年前に亡くなり、さらに二年前には私よりも六歳下の大潟の弟も亡くなっています。残っているのは私と二歳年下の愛知県稲沢市在住の弟だけです。いま振り返ると、半日や一日の小旅行でもいいから一緒に出かければよかったと思います。

稲沢の弟は二年ほど前から盛んにラインを送ってくるようになりました。たぶん、その前は大潟の弟に送っていたのでしょう。それだけさみしくなったのだと思います。四人そろっての旅行はもう叶いませんが、二人だけでも一緒にキョウダイ旅行に出たいと思っています。

クリーンセンター変圧器で質問相次ぐ

6月議会で上程された案件を審査する常任委員会が４日から始まりました。４日は厚生常任委員会でした。

審査で一番質問が出たのは、クリーンセンター（ごみ焼却施設）の管理運営費です。本年２月、クリーンセンターにおいて送電及び受電を行う変圧器が落雷の影響により故障しました。このため、仮復旧のための代替変圧器の設置及び復旧に向けた変圧器の調査に係る経費１億615万円を今回増額するという内容です。

委員からは、「（仮復旧のための代替変圧器の設置は今年度の秋、変圧器の復旧完了は来年９月という）スケジュールは、正確か。完了までの期間が長すぎるのではないか」「災害保険の対象になるのか」「事故によって失われた損失はどれくらいか」「事故原因の調査はなぜもっと早くできなかったのか」「代替変圧器を買い取ってやっていけないのか」などの質問が相次ぎました。

行政側は「おおよそこのスケジュールで行ける」「変圧器の予備品はなく、一からつくるので製造には半年くらい時間がかかる」「仮復旧は本年9月になり、その時点で売電できる。売電は１日当たり100万円になる」「売電収入は１億8600万円減、支出は１億615万円増で、合計２億9200万円、市の支出が増える」「機械を取り外して持ち出さないと調査できない」「あくまで代替なので、そのまま買い取ることはできないということだった」などと答弁していました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。１時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は１時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だとのことです。

	5月28日（水）	6月4日（水）
上越消防署	０．０５７	０．０５３
上越南消防署	０．０４０	０．０５３
新井消防署	０．０５０	０．０４７
頸北消防署	０．０４３	０．０４７
頸南消防署	０．０６３	０．０６３
東頸消防署	０．０４０	０．０５７
名立分遣所	０．０５０	０．０５７
高士分遣所	０．０５０	０．０５０